

教職員向け

LGBT等学生への 対応ガイド

2025改訂版



性の多様性のみならず、あらゆる多様性を尊重し、「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念に則り、高等教育機関の社会的使命として、誰一人取り残さない大学をどう実現するか、「少数派も多数派もあるのが当たり前の社会(キャンパス)」の実現に向けて、明治大学らしい取り組みを進めていくことが必要と考えています。
本ガイドが、その一歩となることを願っています。



明治大学レインボーサポートセンター

はじめに

明治大学では、多様性の尊重と包摂性を重視し、多様な背景を持つ学生が、平等に教育研究その他の活動を行うことのできるハード・ソフト両面のキャンパス環境整備を推進しています。その一環として、学生と接する際の対応や配慮について記した教職員のための「LGBT等学生への対応ガイド」を2022年に作成しました。このたび、レインボーサポートセンターに学生から相談のあった内容や具体的な対応・配慮例を新たに加え、改訂版を作成しました。

本ガイドでは、下記の「多様な性に配慮した教育研究のあり方に係る基本方針」に基づき、現状での具体的な対応指針を示しています。是非ご一読ください。

※LGBTだけでは括れない多様性があることから、明治大学では「LGBT等」を用いています。

※LGBT等に関する基礎知識については、レインボーサポートセンターのホームページに関連情報を掲載しています。

2025年10月



多様な性に配慮した教育研究のあり方に係る基本方針

1 基本理念

明治大学(大学院及び専門職大学院を含む。以下これらを「本大学」という。)は、建学の精神(「権利自由・独立自治」)及び「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」に基づき、学内におけるすべての教育研究活動その他の活動(以下「教育研究活動」という。)が、人権尊重の精神の下に、あらゆる多様性を受容し、差別や偏見による人権侵害が生じることのないよう運営の推進を図っています。この理念に照らし合わせ、本大学は、すべての学生が、性のあり方にかかわらず、ありのままに自分らしく、互いに認め合い、キャンパスのあらゆる場において平等に教育研究活動の機会が得られ、尊重され、個々の能力を活かすことのできる「ダイバーシティ・フレンドリーキャンパス」の実現を目指します。

2 基本方針

本学は、本基本理念にしたがい、その実現の指針となる5つの基本方針を定めます。

(1)差別・偏見の禁止

多様な性のあり方を理由とする差別や偏見を許さないこと

(2)自己決定の尊重

性のあり方に関わる情報やその開示・非開示、また、それらの表現は、当事者の意思・選択を尊重すること

(3)個人情報の保護

性のあり方に関わる個人情報の保護を徹底すること

(4)環境整備

性の多様性に配慮したキャンパス環境・学習環境の整備に努めるとともに、すべての教育研究活動に関して、合理的配慮に努めること

(5)理解促進・意識啓発

教職員及び学生の多様な性のあり方に対する理解を深めること

具体的な対応や配慮について

対応指針：LGBT等の学生が「いる」ことを前提とした対応

「LGBT等の当事者は
周囲にいない」
と思いませんか？

「いない」のではなく「打ち明けていない」だけかもしれないことを想定する。LGBT等の学生が「いる」ことを前提とした対応・言動を行うことはもちろん、仮に当事者がいないとしても、その存在を否定するような発言は控える。「自分の周囲にはいない」と思い込んで、下記の事例のような言動をしてないかを確認することが大切。男女二元論、異性愛、恋愛感情があることを前提にした言動は、LGBT等の学生の存在を否定することにもなる。

事例

- 「うちの学校にはいない」と言われた。
- 男女分けの授業や種目、学祭、部活動において、戸籍上の性別と性自認が一致しないため自分のやりたいことを選択できなかった。
- 授業で使用されたレジュメに、性的指向や性自認に対する配慮がなく、深く傷ついた。
- 相談したら「異性と性行為をしてみればその良さがわかるよ」と言われた。
- 恋愛感情が抱かないことについて「まだ本当に好きな人に出会っていないだけ」と言われた。

※レインボーサポートセンターに学生から相談のあった内容に基づき、匿名性保護のため、一部内容を改編しています。

対応・配慮例：性のあり方について

学生の外見、服装、氏名で
性のあり方を
決めつけていませんか？

相手の性のあり方は、外見や服装、氏名などの情報をから一概に判断することはできない。(例：短髪である、スカート履いている、氏名に「子」がついているなど)
これらの印象だけで、学生の性のあり方を決めつけてしまうことのないよう、留意が必要。

このような対応や配慮を！

授業や窓口対応時の「呼称」への配慮について

- 初対面時、学生を氏名で呼ぶ際は、ミスジェンダリング¹⁾が起きないように、共通の敬称「～さん」で統一する。
- ¹⁾ ミスジェンダリングとは、本人が自認する性別(ジェンダーアイデンティティ)と異なる性として扱うこと。
- 語学の授業では、初回の授業で、学生が希望する呼称や人称代名詞について、アンケートなどで確認する。また、どの代名詞を使用すべきか判断が難しい場合は、氏名やthey/themなど、中立的な表現を用いる。
- 【実際の学生の声】：外国語の授業のオリエンテーション時に、教員が出席をとる際、1人ひとりに対して、どのような敬称を希望するか確認してくれたため、安心して授業に臨むことができた。

性別にとらわれない対応について

- 学生に呼びかけるときは、氏名を用いるか、性別を前提としない表現を用いる。例えば、「その男性の方」ではなく「赤いシャツにメガネをかけた右側の方」など。
- 授業中に用いる言葉は、性別を前提としない表現を選択する。例えば、「OB・OG」ではなく「卒業生」、「看護婦」ではなく「看護師」、「女医」ではなく「医師」など。
- 差別的なニュアンスを含む言葉やジェスチャーは、授業等において使用しない。また、学生にも使用しないよう適切に指導する。例えば、「レズ」「ホモ」「オネエ」といった侮蔑的な表現や、「こっち？」と右手の甲を左頬につけるジェスチャーなど。

授業やゼミ合宿などにおける性別に基づく配慮と対応について

- 授業でグループ分けが必要な場合、性別に基づく不必要なグループ分けは行わない。
- ゼミ合宿や宿泊を伴う学外実習などの場合、事前に学生の希望を確認する。申し出があった場合は、学生本人の意向を丁寧に聞き取り、話し合いを通じて対応・配慮をする。

注意!

●本人の希望を確認する際の注意!

たとえ善意からであっても、「トイレはこちらを使ってください」「女性のグループの方がいいと思って」など、本人の希望を確認せずに判断することは避ける。「どうしたいか」は、性のあり方だけで決まるものではなく、現在の本人の状況や置かれている環境、カミングアウト²⁾の範囲などによって異なるため、個別に対応する。

●事前に本人の希望を確認する際、カミングアウトを強いることのないよう配慮する。例えば、「希望理由を必ず伝えること」などと求めることは避ける。

²⁾ カミングアウトとは、性的少数者が自身の性自認や性的指向などを誰かに打ち明けること。

アンケート調査などの性別欄への配慮について

- 性別情報が必要なアンケート調査などの場合、「男・女」の二択に限定せず「回答しない」や自由記述欄を設ける。

学生から相談を受けたら…

1

「何に困っているのか」「どのような希望があるのか」を確認する。

2

学生の気持ちに寄り添い、理解しようとする姿勢を示す

3

対応に関して情報共有が必要な場合でも、その共有範囲については必ず学生本人に確認する。

注意!

●アウティングに注意!

「アウティング」とは、本人の同意なく、その人の性自認や性的指向、あるいはそれらを特定し得る情報を第三者に暴露する行為を指す。信頼関係を損なうだけでなく、本人の居場所を奪い、最悪の場合は生命に関わる深刻な事態を引き起こす可能性がある。重大な人権侵害につながり得るという認識をもって対応し、情報共有が必要な場合は、アウティングにあたらないよう、必ず、本人の同意を得た上で、共有の範囲や目的にも配慮する。

通称名使用について

- 性別違和のある学生の学籍上の氏名について、通称名を使用することができます。申請は、所属学部・大学院事務室、中野教務事務室で受け付けています。詳細はウェブサイトをご確認ください。



学生への対応や配慮等について不明な点があれば、
遠慮なくレインボーサポートセンターにご相談ください。

【発行・問い合わせ先】 明治大学レインボーサポートセンター

【電話】03-3296-4605(内線:60-4605) 【WEBサイト】

平日10:00～17:00(事務局:学生支援事務室)

明治大学 レインボー

